

しん どう ひかる
新道 光 さん

第45回読売学生書展
 文部科学大臣賞

納得のいく字はなかなか
 書けないけど、
 「母」は気持ちよく書けた！



力 強く、どっしりとした字。それでいて繊細で均整の取れた字を書いているのは、向山小学校4年生の新道光さんです。昨年12月に行われた第45回読売学生書展で最高賞の文部科学大臣賞を受賞しました。従姉が書道展で賞をとっているのを見て「かっこいい」と思い、こども園の年長から書道を始めた新道さんは、それ以来、週に2回、夏休みなどは週3~4回の稽古に励んでいます。

今回の受賞作品は「母のこえ」と書きました。「母という字は大人でもバランスをとるのが難しい字。それをどっしりとバランスよく書けていた」と指導をされている豊田春園さん。次の目標は、JA共済小・中学生書道コンクールでの特別賞以上。学年も上がり、条幅で、画数の多い漢字に挑戦することに。「難しくなると思うけれど、全体のバランスと強弱に気を付けて頑張りたい」と意気込みます。



データサイエンス 学部誕生！ 優秀な人材育成を



市長コラム 希望の風 市長の部屋

私たちの挑戦はここにとどまらず、来年度新たに「看護学部」を設置する準備を進めています。ご協力を頂いたすべつの方に改めて感謝を申し上げるとともに、優秀な人材を育て下関に定着させることのできる市立大学ブランドを、より磨き上げていくことをお誓いし、皆さまへのご報告とさせていただきます。

皆さんこんにちは！ 前田晋太郎です。今回は、下関市の大きな変化の一つをご紹介します。この4月、下関市立大学に新しい学部が誕生しました。その名も「データサイエンス学部」です。市立大学は約60年間、経済学部のみで構成された単科大学でした。私は7年前の公約で「少子化、都市間競争に打ち勝つために市立大学の総合大学化を目指す」と宣言し、多くの方にご協力を頂きながら準備を重ねてきました。そしてついに、昨年、文部科学省から新学部設置の認可を頂くことができました。今春、新たな学部生を募集したところ、経済学部と併せた志願倍率は全国の公立大学で2番目となる10・4倍(全国平均は5・5倍)を記録。データサイエンス学部への関心は非常に高く、一般選抜の中期日程では10人枠に対し、なんと424人も志願者がありました。多くの若者が挑戦してくれたことは、市民にとってもとても喜ばしく、勇気づけられる結果だと思っています。私たちがの挑戦はここにとどまらず、来年度新たに「看護学部」を設置する準備を進めています。ご協力を頂いたすべつの方に改めて感謝を申し上げるとともに、優秀な人材を育て下関に定着させることのできる市立大学ブランドを、より磨き上げていくことをお誓いし、皆さまへのご報告とさせていただきます。